

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

152

2014年9月30日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004  
神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 「物語を読む」ということ

日本語教育部会  
授業研究会 開催

研究所日本語教育部会が、宍粟市の中学校において国語の授業研究会をおこないました。

授業は1年生「星の花が降るころに」(光村 国語1)の第2時。冒頭、物語に登場する「銀木犀」を提示し、前時を振り返りました。夏の教育課程編成講座で話があった「物語の冒頭と結末をつなげて読む」ことを前時におこない、その間の展開を各自が予想したものをグループごとに発表しました。



その後、教科書全文を通読して物語のあらすじを理解してから場面分けをし、各場面の設定や登場人物を確認したところで授業を終えました。授業者が教材と向き合う姿勢が子どもたちの真摯な学びにつながっているようでした。授業展開の詳細については、[組合員専用ページ](#)(研究所HPよりID・パスワードを入力してログイン。IDとパスワードは各支部にお問い合わせください。)に指導案を掲載しますのでご覧ください。

研究協議では、「冒頭と結末を読む」という授業の展開と関連させつつ「物語を読み、学ぶためには」という観点で協議がされました。

共同研究者からは、以下のような助言がありました。

物語には必ず作者の意図があり、その意図した展開に沿って読むことで物語の理解が深まる。また、ひとつの教材にかける時間数が限られる中では、今回のような展開よりも物語の要素・叙述の読み取りに時間をかける方が子どもたちのよりよい学びにつながるのではないかと。

この物語は、冒頭と結末、2場面と5場面、3場面と4場面が対になる構造となっている。そこに気づいて読むことが物語の読みを深めることにもなる。そこに注目するひとつの手法として「冒頭と結末を読む」ことがあり、その間を予想することが主ではない。授業者が物語の構造を理解し、それを子どもと読み取っていくことが大事である。

参加者一同が、詳しく教材研究すること、それを授業化することの難しさと楽しさを改めて感じた授業研究会となりました。